

氏名	宮 田 和 豊		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1663 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 6 月 30 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	泌尿器科疾患における尿中 NAG の臨床的意義		
論 文 審 査 委 員	教授 産賀敏彦	教授 太田善介	教授 長島秀夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

泌尿器科疾患における尿中N-acetyl- β -D-glucosaminidase (NAG) の臨床的意義を解明する目的で各種泌尿器科疾患および化学療法施行時の尿中NAGを測定し以下の成績を得た。(1) 健常者control 群のNAG 活性値は $3.3 \pm 2.6 \mu/\ell$, NAG指数は $2.7 \pm 2.6 \mu/g \cdot \text{クレアチニン}$ であった。(2) 80才以上の男性群はcontrol 群および19才以下の若年者群より尿中NAG は上昇していた。(3) Ccr $50\text{ml}/\text{min}$ 以下の腎障害群で尿中NAG は上昇していた。(4) 急性腎盂腎炎では尿中NAG は著明に上昇し, 下部尿路感染症との鑑別ならびに臨床経過のモニタリングに有用であった。(5) stage I 腎細胞癌患者では尿中NAGは有意に上昇しており, 腫瘍マーカーとしての有用性が示唆された。(6) 腎毒性薬剤の使用により尿中NAGは鋭敏に上昇した。

従って, 尿中NAG の測定は, 各種泌尿器科疾患の診断, 腎障害の早期発見, ならびにそれらのモニタリングに有用であると考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は泌尿器科領域における尿中N-アセチルグルコサミニダーゼの臨床的意義に関する研究であるが, 本領域の各疾患について詳細に検討し, 鑑別診断, 臨床経過のモニタリング, 尿細管機能障害の指標等に有用であることを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。